

平成 28 年度カタリバ特別授業を別府溝部学園高校で開催しました

平成 28 年度 2 回目のカタリバ特別授業が平成 29 年 2 月 18 日(土)、20 日(月)、別府溝部学園高校体育館で行われました。18 日は普通科・食物科の 101 名、20 日は看護科の 61 名の 2 年生が参加しました。

このカタリバ特別授業は、大分大学と「認定 NPO 法人カタリバ」がタイアップして、本学の後学期教養科目「カタリバでキャリアを拓く¹⁾」(金曜 2 限、授業担当は本学経済学部 教授 宮町良広、特任教授 佐藤裕哲、「認定特定非営利法人 カタリバ²⁾」の今村 亮氏、長濱雅徳氏)を開講しています。



「カタリ場³⁾」とは、主に高校生の将来への可能性を引き出し、そのための行動へと動機づけることを目的とした高校と大学が真剣に向き合うことで成立するキャリア学習プログラムです。“親”でも“先生”でも“友達”でもないすこし年上の“先輩”だからこそ、将来への夢や期待感を刺激し、高校生の本音を引き出す対話の場を提供しようとする“キャリア教育”の一形態と考えています。受講生は、授業では「**ナナメの関係で高校生の心に火を灯す**」ことを目標に、

高校生に親近感と憧れを抱かれる存在になるための方法や心の内を引き出す方法、対話力などの修得に時間をかけます。生徒の思いを引き出し聴く「先輩役(キャスト)」、自分の体験を基に高校生に語りかける「サンプリング」、授業の流れを見据え、当日の運営を行う「プロジェクトマネージャー(PM)」や「PM コア」などの役割について学習し、ワークショップで「話すこと」「聴くこと」「理解すること」「伝えること」などの方法を学びます。

〈表 カタリバ特別授業 1 日目の流れ〉

開始	終了	(分)	内 容	具体的な動き	会場
8:00			溝部学園高校到着	大学生控え室移動。	
8:10	9:10	60	最終研修	授業の流れ確認、導入確認、班内共有、全体共有、サンプリング練習。	控え室
9:30	9:55	25	① 班づくり	大学生 1 名と生徒 3 名の班を作る。	体育館
9:55	10:15	20	② 座談会	ワークシートを基に班ごとに大学生と座談会。	体育館
10:15	11:09	18×3	③ 先輩の話 (サンプリング)	18 分×3 回で進行。先輩を 3 人選んで話を聞く。並行して班の先輩と座談会。	体育館
11:09	11:20	11	④ 約束・まとめ	班に戻り今日の学びを約束カードに各自記入。	体育館
12:20	14:20	120	振り返り	大学生が本日のカタリ場の授業を振り返る。	控え室

事前アンケートをもとに生徒のみなさんを想定した具体的な授業構成を組み立てています。18 日、午前 9 時 30 分、「今の自分を見つめ直し、将来、なりたい自分を見つけ、行動しようと思うきっかけを作る」をテーマに特別授業“**HEART CATCH**”(溝部学園高校の授業の名称)の直前の事前準備を行いました。高校生と大学生のナナメの関係で、溝部学園高生の心に本気の火を灯すことで生徒のみなさんの自立を促します。9 時 30 分、2 年生 101 名を体育館で待ちます。溝部学園高生の入場です。拍手で迎えます。PM の草場晶斗君(経済学部 1 年)が、特別授業の開始を宣言しました。自作のワークシートを活用し生徒の気持ちを引き出します。「サンプリング」では、先輩達が実際に体験した挫折や葛藤を大学生の生の声で語りかけました。高校生は真剣な眼差しで聞き入ります。生徒のみなさんの眼の輝きが増して本気モードに入ったことがわかります。その後、グループに戻り高校生は自分と向き



合います。大学生もそっと話し込みます。本日から取り組む“約束”をカードに書き込みました。PM は、「約束カードに書いた決意は、みなさんの道しるべとして折に触れて見てください。そして、今日の特別授業を思い出してください。」と語りかけました。溝部学園高生の本気度は最高潮に達しました。授業後、大学生も自分自身を見つける機会になっていることに気づいています。溝部学園高生がこの感動を忘れずに自分の目指す方向に邁進してくれること祈っています。20 日も同様の授業を行いました。



1 平成 25 年度に開講しました。

2 「認定特定非営利活動法人 カタリバ」については、<http://www.katariba.net/>を参照してください。

大分大学の事例は、<https://www.katariba.net/news/2016/12/22265/>を参照してください。

3 カタリ場：「カタリバが実施する、キャリア総合学習の呼称。本書では団体・組織名を「カタリバ」、高校生向けプログラム名を「カタリ場」として使い分けている。」(上阪 徹(2010)『「カタリバ」という授業』 英治出版 p.16)。